

III 研究ノート III

韓国，踊る群衆（Ⅱ）

澤 喜司郎

9 法治と政治

朴大統領の弾劾審判の宣告を控え、3月4日には弾劾賛成派と反対派がソウル中心部で大規模な集会を開きました。「退陣行動」は光化門広場で19回目のろうそく集会を開き、延べ90万人が参加したとされ、ろうそくを掲げた群衆が光化門広場の北端から東亜日報社前まで埋め尽くし、憲法裁判所による朴大統領の弾劾と、黄教安大統領権限代行首相の辞任を要求し、集会後は青瓦台や首相公邸、憲法裁判所に向けて行進しました。なお、本集会は「朴槿恵のいない3月、それでこそ春だ」という主題で開かれ、「朴槿恵のいない春を作る準備はできましたか？」という司会者の問いかけに、ろうそくを持った群衆は大きな声で「はい」と答えていました（ハンギョレ新聞3月5日18時2分配信）。

一方、弾棄国の16回目となる太極旗集会には、ソウル市庁舎前の広場や道路を埋め尽くすように太極旗を手を持った人々が集結し、弾棄国は「憲法裁判所の決定は10日か13日に出る見通しだ。気を抜かずに弾劾反対を貫こう」と呼びかけ、集会には自由韓国党や朴大統領の代理人らも参加していました（聯合ニュース3月4日22時3分配信）。²³⁾

23) 玉置直司「韓国大統領、『運命の日』迫る」(JBpress 3月8日6時10分配信)は、「ふだんなら国民の関心を集めることがない憲法裁判所だが、いまは李貞美所長権限代行の出勤風景はそれだけでニュースになる。大統領の弾劾訴追案の審理が大詰めを迎えているからだ。憲法裁判所の周辺では、弾劾反対派、賛成派の集会が連日開かれている。7日にも両陣営の集会が開かれた。李貞美氏の出勤・退勤の様子を見ると、ものしい警備がついている。大統領弾劾訴追案審理は、9人の裁判官のうち7人の参加

朝鮮日報のコラム「『法の通りに』 やっても解決を期待できない韓国政治」(日本語版3月5日6時5分配信)は、「大統領の進退問題を政治的妥協という努力なしに、たたきつけるように憲法裁判所に任せるのは正しいことなのか。法治は政治的難局を解決してくれる特効薬なのか」「弾劾が決まっても決まらなくても混乱するのは目に見えている」「我々韓国人にとって政治とは何なのか」と自問し、「韓国社会には政治的解決策を潔しとしない傾向がある。政治的妥協を駆け引きやごまかし程度にしか考えていない」「このような見方が韓国の政治の質をさらに下げている。質が低いと評価されればされるほど、政治家は自ら解決すべき問題を恥ずかしげもなく他人に転嫁する。そうすればなおのこと政治的事案を抱える法治の負担は増える。この悪循環が今、韓国を二つに引き裂き、『アスファルトが血と涙でぬれる』極限闘争まで予告されている」「法治は近代国家の必須条件だ。法を尊重し、順守する意識がなければ法治は不可能である。しかし、法秩序を完成させ、維持させるのは、法治ではなく政治の力だ」と述べていました。²⁴⁾

他方、中央日報の社説「運命の一週間…弾劾以降を準備する時」(日本語版3月6日17時38分配信)は、「もう数カ月間、累積人数2000万人を超えたらうそくと太極旗の勢力は審判以降を準備しなければならない。最も重要なのは心の準備だ。憲法裁判所がどのような決定を下そうか、承服して受け入れる心の姿勢を備えるべきだ。ろうそくと太極旗集会に参加した市民が多くの

が必須だ。すでにそのうちの1人である所長は1月末に任期切れで退任し、8人になっている。万一、あと2人に「不測の事態」が起きれば、弾劾訴追案の審理そのものができなくなる。警備が嚴重なのは、そのためだ。8人の裁判官は、連日、超緊張状態のはずだ。盗聴防止装置がついた執務室や会議室で、週末も関係なく連日、資料の読み込みや会議を続けている」としていました。

- 24) 続けて、同コラムは「先日、法曹関係者9人が新聞広告欄で『裁判官全員参加の憲法精神を順守してほしい』と要求した。歴史的弾劾の日程を裁判官の退任予定に合わせる拙速を避けてほしいという要求だ。ほかのことはともかく、この要求には納得がいった。しかし、今回は政治だ。誰も今、韓国の政治が裁判官2人の後任人選に合意するものと期待していない。ゆがんだ政治がゆがんだ法治を生み、結局は不服と衝突の不幸な未来を予告しているのだ。政治は自身の無能さを正そうとしない。ただ最高権力という立派な輿に乗り、『血と涙のアスファルト』の上を行進しようとするだけだ」としていました。

峠をおそるおそる越えながら、かろうじて非暴力を守ってきたのは奇跡的なことだ。このような非暴力平和集会は民主化の過程で韓国市民が作ってきた伝説のような自負心になっている」「非暴力平和の遺伝子は憲法と民主主義を守るために永らく次の世代に受け継がれるべきだ。『弾劾が認められればアスファルトに血が落とされるだろう』とか『弾劾が棄却されれば革命しかない』という恐ろしい言葉は、賛否運動の過程から出た激しい言葉にとどめるべきだ」と主張していました。²⁵⁾

10 憲法裁判所と宣告日を告示

憲法裁判所は3月8日に裁判官の全体会議である評議を開き、宣告期日を3月10日に指定しました。大統領の職務停止という国にとっての重大さを考慮し、通常とは異なり、特別に期日を指定し、憲法裁判所所長の権限代行を務めている李貞美裁判官が3月13日に退任する前に決定を言い渡すことになりました²⁶⁾。2016年12月9日に国会が朴大統領の弾劾訴追案を可決してから91日

- 25) 続けて、同社説は「実際、敵対的な両側陣営の市民は驚くべきほどの忍耐力で政治的意思を表わしている。問題は群衆心理の破壊性を刺激して政治的利益を追求する醜い政治家らの考えだ」「文在寅前『共に民主党』代表など野党の政治指導者が見せたポピュリズム政治も大きな失望を与えた。次期大統領を夢見ながら街中の要求を政治に吸収するどころか、随時広場に駆け付けて怒りのろうそくに便乗しているのではないか」「弾劾が認められようが棄却になろうが、政局は今まで全く予想もしなかった方向に竜巻を起こすかもしれない。どのような場合であれ、政治は『完勝か完敗か』ではない、妥協と交渉の技術という精神を忘れてはいけない。この精神を忘れて、再び広場の群衆に屈服する醜い政治が再発しては困る」としていました。
- 26) 玉置直司「韓国大統領、『運命の日』迫る」(前掲)は、弾劾か棄却かを決めるポイントは「違反の重大性」にあるが、これほど曖昧な基準もないとし、韓国で法律の専門家に「弾劾なのか、棄却なのか?」と聞くと、ほとんどが「弾劾ではないか」と答える。だが、『どういう事項が“重大な違反”なのか』と聞いても、明解な答えが返ってこない。おそらく、数多くの疑惑の中で、一部の公文書が崔順実氏に流出していたことは立証されているはずだ。だが、『国会機密』で『重大性のある文書』が含まれているのかは分からない。財閥は、財団に資金を拠出した。財閥は、『大統領側に強要された』とは言うが、対価性がある『贈賄』ではないと一貫して否定する。大統領側は、『収賄』はもちろん『強要』も全面否定している」「特別検察の捜査と憲法裁判所の判断は直接は無関係だが、捜査結果についてもこれだけ見解がはっきり分かれているのに、いったいどうやって『弾劾』か『棄却』を判断するのだろうか」と疑問を呈していました。

で弾劾審理が終了し、朴大統領は弾劾が決まれば直ちに罷免され、弾劾が棄却されれば復職します。罷免された場合、宣告から60日以内に次期大統領選が行われることとなります（聯合ニュース3月8日17時57分配信）。憲法裁判所がいかなる決定を下した場合でも、弾劾に賛成する側と反対する側が衝突する可能性が高いとみられていることから、憲法裁判所は警察庁に警戒・警護の強化を要請し、警察庁は3月9日午前8時から全国で非常警戒に入り、宣告日である3月10日にはソウルに最高非常段階である甲号非常体制を発令することを明らかにしました（中央日報日本語版3月9日9時42分配信）。²⁷⁾

憲法裁判所が3月10日午前11時に宣告することがニュースで伝えられると、弾劾に賛成するキャンドル集会と反対する太極旗集会の両陣営はいずれも憲法裁判所周辺で大規模集会を開くと表明し、太極旗側（弾棄国）は総動員を呼び掛け、3月8日から3月11日まで4日連続で集会を行い、キャンドル側（退陣行動）も宣告前日の3月9日に光化門、3月10日に憲法裁判所前で集会を開くことを表明しました（朝鮮日報日本語版3月9日10時7分配信）。

朝鮮日報の社説「朴大統領弾劾審判の日、韓国国民全てが自重と自制を」（日本語版3月9日10時7分配信）は、「宣告前日となる今日も一瞬たりとも警戒を怠ることはできないが、宣告後の方がむしろ大きな問題になりそうだ。最近の世論調査によると、回答者の44%が『自分の意向に反する判決が出た場合は承服しない』と答えている。すでにキャンドル側は『弾劾が棄却されれば革命』、太極旗側は『弾劾が成立すればアスファルトに血が流れる』と表明しており、またパクサモ（朴槿恵大統領を愛する会）の会長はネットに『自分は十分に生きた』と書き込み、死ぬ覚悟ができてきているかのように伝えている。非常に危険な状況だ。憲法裁判所が宣告の日時を決めたということは、弾劾の結果はすでに決まっていることを意味する。そのためキャンドル

27) 大統領側の金平祐弁護士は3月8日午前憲法裁判所正門で記者会見を開き、「憲法裁判所は自滅するな。8人の裁判官が認容あるいは棄却、いかなる決定を下しても裁判権のない裁判部が下した決定であるから法律上無効だ」と主張しました。一方、国会側の黄貞根弁護士は「最終準備書面提出日の15日後に宣告日が決まった。裁判官が意見を定めるために時間を十分かけた」と判断される。国民の常識や道理にかなった結果が出ることを期待する」と述べていました（中央日報日本語版3月9日9時42分配信）。

側も太極旗側も今からいくら自分たちの力を誇示しても、すでに下された結果を変えることも覆すこともできない。つまり今集会を開くことに何の意味もなく、それくらいは誰もが理解しているはずだ。そのため今後の集会は憲法裁判所の審理に影響を及ぼすためではなく、承服しないことへの準備と考えるしかない。結果を承服しないということはすなわち法治を崩壊させ、この国を無政府状態にするということだ。これは絶対に容認できない」と主張していました。²⁸⁾

他方、ハンギョレ新聞の社説「3月10日弾劾宣告，“積弊清算”の開始」（3月9日12時1分配信）は、「憲法裁判所裁判官8人がどのような判断で、どのような決定を下すかはまだ分からない。裁判官はひたすら法と良心に従って判断するべきで、その決定は再びすべての国民と歴史の審判に委ねられるだろう」と主張し、憲法裁判所の決定を国民つまりろうそく群衆が審判するとしていました。

続けて、同社説は「“セウォル号7時間”に大統領が何をしていたのかも相変わらず分からないので、国民の安全を守らなければならないという憲法上の義務を果たさなかった。これらの違反が罷免する程に重大なことかという判断も難しいことはないだろう」「収賄疑惑まで明らかになった以上、大統領の憲法・法律違反は他に類を見ないほど重大だ」とし、他方で朴大統領の弾劾が当然だとして「朴大統領支持者は、もう憲法裁判所に対する悪口と攻撃を止めなければならない。憲法裁判所の決定に対する『不服従』を扇動すること自体が、憲政と法治を脅かすことで、大韓民国を否定する暴挙だ」としていました。

28) 続けて、同社説は「宣告の日時が決まってから集会を開いて支持者を刺激するような政治家がいれば、彼は国のためにならない政治家として非難されなければならない」「憲法裁判所の決定は、国論の分断に拍車を掛けるものではなく、対立の傷を癒すきっかけでなければならない」「憲法裁判所は宣告の内容について憲法的、法律的な根拠を明確にし、批判の余地を一切残してはならない」「国民には誰もが自重し、また自制する姿勢が求められる。その意味で今はまさに国の運命を左右する重大な時期だ」としていました。

11 宣告前日の誹謗中傷の応酬

弾劾審判宣告を翌日に控えた3月9日午前8時に、警察はソウル全域に乙号非常を発令し、憲法裁判所正門につながる通路以外は警察バス20台で、ろうそく集会と太極旗集会参加者の接近を防ぐ車壁を作りました。1人デモ隊20人が、「弾劾却下」「軍隊よ、立ち上がれ」「弾劾されてこそ春がくる」「弾劾が民心」などと書かれたカードを持ち、1人デモの女子大生は「常識的に弾劾されると思う」と語り、50歳代の男性は「当然、弾劾は棄却される。審判が終われば手段・方法を問わず従北勢力を清算しなければいけない」と主張していました。

憲法裁判所正門から120mほど離れた地下鉄安国駅付近では午前中から集会が行われ、「弾劾却下！大韓民国を守ろう」という拡声器の音が響き、午前10時からは市民100人が「弾劾棄却」を叫び、太極旗と星条旗を振り、一方、1kmほど離れた光化門広場では午後にろうそく集会が開かれました。ろうそく集会と太極旗集会ではともに憲法裁判所の決定は受け入れないという主張が続き、ろうそく集会参加者は「8対0の全員一致で弾劾されなければ青瓦台の方向に行進して抗議する」と語り、太極旗集会参加者は「8人の裁判官の宣告は大韓民国の憲法を完全に否認する違憲であり不法であるため無効だ」と主張していました（中央日報日本語版3月10日7時47分配信）。

また、9日のインターネット上では、弾劾賛成派が「弾劾が認められれば朴槿恵は逮捕、女王（朴大統領）に取り入る親朴派の奸臣（腹黒い家臣）たちは殉死だ。『官製デモ』をした保守団体は捜査し、憲法裁判所を冒涇して暴力行為を煽った暴動分子は逮捕しなければならない」「弾劾反対派の年寄りたちは全員、年金支給停止にしなければならない」「収容所に閉じ込めて苦しめて殺してしまえ」「弾劾がだめだったら鉄パイプを持って青瓦台に攻め入り、朴槿恵を引きずり下ろす」「弾劾が認められれば（朴大統領は）手下たちと牢屋に行くだろうが、棄却・却下なら手下たちと一緒に肉の塊になって道端に転がされるだろう」と書き込んでいました。一方、弾劾反対派

は「弾劾が棄却・却下されたら、弾劾を計画した民主労総（全国民主労働組合総連盟）・全教組（全国教職員労働組合）・メディアを壊滅させるため全面戦争を開始する」「アカ（共産主義者）は殺してもいい。明日はアカたちの命日になるだろう」「弾劾が認められれば、世の中をひっくり返してやる」「文在寅の首をまずはねよう」「却下した判事（憲法裁判所裁判官）は10日に飛行機に乗って米国に逃げる準備でもしろ」と書き込んでいました（朝鮮日報日本語版3月10日10時0分配信）。²⁹⁾

朝鮮日報の社説「朴大統領弾劾審判，国民は『歴史的承服』で危機を克服しよう」（日本語版3月10日9時28分配信）は、「9日，憲法裁判所の周辺では弾劾に賛成する側と反対する側の双方の集会が開かれた。弾劾に反対する側のスポークスマンは『弾劾却下に反対した裁判官を国家への反逆者として審判してやる』などと述べた。一方の弾劾賛成の側は『（弾劾が）棄却されれば革命だ』などと繰り返し主張している。どちらの側でもいまだにこのような主張がまかり通っていること自体が懸念すべきことだ」「ここ数カ月間，群衆による無秩序な行動や主張が国の将来を危険にさらしているとの声も高まっているが，一方で今や結果への承服以外に残された道がないのも厳然たる事実だ」としていました。³⁰⁾

29) また、「弾劾が認められたら、朴大統領は海外に亡命する」といううわさも飛び交い、あるネットユーザーは動画共有サイト「ユーチューブ」に大統領専用機と同機種のボーイング747が飛行する様子を撮影した動画を掲載し、「この4か月間姿を見せなかった大統領専用機が京畿道城南市のソウル空港（ソウル空軍基地）近くを飛行する姿が目撃された。朴大統領は海外亡命を準備しているのではないか」と言い、朴大統領は職務停止状態のため大統領専用機を利用できないが、この動画の再生回数は一日で38万回を超えたと報じられていました（朝鮮日報日本語版3月10日10時0分配信）。

30) 政界・宗教界・法曹界の重鎮や指導者らは3月9日に、「憲法裁判所でどのような決定が出ようともこれを受け入れ、政界が国民統合の新時代を切り開いていこう。政治家たちは憲法裁判所の決定後に行われる可能性のあるさまざまな集会に参加するのではなく、国民が日常に戻れるよう努力しなければならない」（丁世均国会議長）、「結論に至る過程で激しい対立があったとしても、憲法裁判所の（審判）結果を謙虚に受け入れなければならない」（イ・ヨンフン韓国キリスト教連合会代表会長）、「憲法裁判所の決定を受け入れないことは、法治主義と民主主義を毀損することだ。憲法裁判所でどのような決定が出ようと、弾劾賛否勢力とも受け入れるだけでなく尊重しなければならない」（キム・ヒョン大韓弁護士協会会長）と述べるなど、「憲法裁判所でどのような決定が下されようともその結果を受け入れ、政局の安定に力を集結させなけ

他方、ハンギョレ新聞の社説「弾劾以後の国民統合は朴大統領の態度にかかっている」（3月10日7時9分配信）は、「憲法裁判所の宣告を控えて、政界は嵐の前の緊張の中にいる。緊張と心配がより大きいのは、弾劾審判の結果に従わず極端な行動が起こりかねないという一部極右団体や個人の発言が相次いでいるためだ」「『朴槿恵を愛する会』（パクサモ）は10日午前10時に憲法裁判所前に総集結し“最後の戦闘”をしようと呼びかけた。憲法裁判所が朴大統領の罷免を決めれば、全面的な不服従闘争を行おうと扇動している」「朴大統領は先週、弾劾反対運動を主導するパクサモに向けて『有難く、感謝申し上げる』という内容の手紙を送った。弾劾反対運動を一層熱心にしてほしいという露骨な扇動に過ぎない」「朴大統領は国家指導者として、これ以上対立と葛藤を煽る行動をしてはならない。それが国民に対する最低限の礼儀であり、大統領としての責務だ」と、朴大統領を批判していました。

12 罷免決定とろうそくの勝利

3月10日を前に憲法裁判所の内外は極度の緊張感に包まれ、弾劾賛成派と反対派が憲法裁判所を取り囲み、警察は前日の9日から憲法裁判所前の通行を規制し、万一の事態に備えていました（聯合ニュース3月10日8時47分配信）。ハンギョレ新聞（3月10日5時44分配信）は、「運命の日が明けた。政界と一部マスコミは、朴槿恵大統領一人が迎える運命にばかり焦点を合わせている。しかし、韓国の民主主義と普通の人々の人生も重大な岐路に立つ日だ」「極右の政治家や大統領代理人たちの暴言、親朴槿恵集会などが不安感を高めたのは事実だ」が、「ハンギョレが話を聞いた人々は、司法的判断や政治工学的な判断よりも民意に従う憲法裁の判断を楽観した」「この92日間は『弾劾列車』の走行時間であるだけでなく、韓国社会の積弊が鮮明に暴か

ればならない」と国民の自制や団結を呼びかけていました（朝鮮日報日本語版3月10日9時26分配信）。

れる過程でもあった」と報じていました。³¹⁾

中央日報の社説「今日の承服が法治の新たな歴史を開く」（日本語版3月10日11時53分配信）は、「憲法裁の前の『賛』と『反』の激烈さ。審判後の影響を憂う重い沈黙の多数。真実の孤独に眠れない裁判官。そのすべてが今日抱くべき言葉が『法治』だ。大韓民国共同体の2つの作動原理は『法治』と『民主主義』だ。弾劾賛成側と反対側がともに自らの要求が法治だと主張し、憲法裁に圧力を加えてきた。『意思表示の自由』であるため民主的だ。しかし一つ間違っている。ろうそく集会側の『正義』や太極旗側の『愛国』のような人間の裁断より法治こそがより高い価値だ」「個人の信念より『法の中の自由』だけが共に生きる社会を支えることができる。さらなる葛藤はすべてを共倒れの奈落に落とすだけだ」「今は憲法裁の審判を受け入れる時間だ」「この未曾有の混沌を收拾する始まりは承服しかない」と主張していました。³²⁾

憲法裁判所は、裁判官全員一致で朴大統領の弾劾を認容し、罷免すると言いました（朝鮮日報日本語版3月10日11時21分配信）。光化門広場などに集まった群衆は、憲法裁判所所長代行の李貞美裁判官の宣告をスマートフォンなどで視聴し、李裁判官が罷免を言い渡すと「ろうそくが勝利した」「われわれが成し遂げた」などと一斉に歓声を上げ、飛び上がって喜ぶ人、中には爆竹を鳴らし踊りながら喜ぶ人、拳を握りしめて喜ぶ人、帽子を高く投げ上げる人、万歳を叫ぶ人、涙を流しながら隣の人と抱き合い「ご苦労様」

31) 弾劾審判の宣告に対する国民的関心を反映し、24席の一般傍聴の抽選に1万9096人の応募が殺到し、競争率は約800倍と報じられていました（ハンギョレ新聞3月10日9時6分配信）。

32) 聯合ニュース（3月10日11時47分配信）は朴大統領の罷免を受け、「弾劾審理の過程で国論の分裂が表面化し、朝鮮半島を取り巻く情勢も不安定な中、さまざまな国政懸案が山積している。こうした時こそ政治の力が試されるが、今年12月のはずだった大統領選が前倒しされることから権力獲得に向けた与野党の対決は鮮明となり、分裂がさらに進みかねない。政界はうわべでは憲法裁の決定を受け入れるとするが、弾劾の賛成派、反対派としてそれぞれ集会を繰り返してきた国民を支持層に取り込み、大統領選を有利に進めようとする面があることも否定できない。民心を取りまとめるべき政治が、むしろ社会的な葛藤を選挙戦に活用するならば、対立と反目を煽るだけだ」と報じていました。

「大変だったね」などと互いの労をねぎらう様子もみられ、「キャンドルの勝利だ」「朴槿恵を逮捕せよ」などと書かれた横断幕が広げられると、参加者の中にはシャンペンを開ける人もいました。「退陣行動」は、「ろうそく抗争勝利宣言文」（弾劾は変化の始まりにすぎない。ろうそくは続き、さらに広がる）を発表し、その後、青瓦台に向かって行進を始め、「市民ラップ部隊」と書かれた旗を持つ参加者が行進の先頭に立ち、青い囚人服を着て手首を縄で縛られた朴前大統領の人形がその後につき、青瓦台近くに到着すると「朴槿恵の部屋を撤去せよ」などと繰り返し叫んでいました（朝鮮日報日本語版3月11日9時1分配信）。³³⁾

他方、憲法裁判所周辺での弾劾反対集会の参加者は、罷免の決定が出たことに反発し、「憲法裁をたたきのめそう」などと叫び、憲法裁判所の建物に向けて行進しようとして、それを止めようとする警察と睨み合っていました。中には警察官に向けて角材を振り回したり、頭を警察バスにぶつける自傷行為を行ったりする人もいたと報じられていました。また、ソウル市庁付近での弾劾反対集会では、裁判官8人全員の賛成で罷免が決定すると、参加者らは「全員？本当に？」と信じられないという表情を見せ、多くの参加者が憤り、涙を流し、怒りにまかせて報道陣に暴行する人も現れ、太極旗と星条旗を手にした参加者と警察が対峙する中で、集会の主催者は「裁判官8人は正義と真実から目を背け、不義と虚偽に味方した。国民抵抗権を発動する」と公言しました（聯合ニュース3月10日14時32分配信）。³⁴⁾

33) なお、ネットには3月10日を「3・10弾劾節」として祝日に指定するよう求める書き込みも相次いでいましたが、「この日は韓国の歴史上、はじめて現職の大統領が罷免された日であり、憲政史上の悲劇として記録されることは間違いない。キャンドル集会の参加者たちにとっては、自分たちが望まなかった『弾劾棄却』の結果が出なかったことに安堵したかもしれないが、拍手しながら歓声を上げ、シャンペンを開けるような祝いの日でないことだけは確かだ」（朝鮮日報日本語版3月11日9時1分配信）と言われていました。

34) ハンギョレ新聞の社説「民主主義の道しるべを新たに打ち立てた市民革命の勝利」（3月11日6時18分配信）は、「朴前大統領の支持者は、もう狂気の濁流から抜け出さなければならぬ。大統領に対する弾劾反対は、灯りに向かって無為に飛び込んでいく夏の虫に過ぎないことが、憲法裁判所の決定により確認された。それでも無駄になった迷妄と盲信から抜け出せずに、このままずっと太極旗を辱める行為を続けるならば、

聯合ニュース（3月10日14時59分配信）は、「8人の裁判官は罷免の理由については意見の違があったが、全員が朴氏を罷免することが妥当だと判断した。保守系とされる一部の裁判官は棄却の意見を出すとの観測もあったため、憲法裁が国民の統合を呼びかけるメッセージを出したとの見方も出ている。裁判官の一部が棄却の意見を出した場合、朴氏の罷免に反対する勢力が憲法裁の決定を受け入れない可能性もあったが、全員一致だったため、そうした懸念も大幅に解消された」と報じていました。

13 最後のろうそく集会とテント村

憲法裁判所が朴大統領の弾劾を認容する決定を下した3月10日夕方に、光化門広場に集まった3万人の群衆は4か月以上に渡って叫んできた「朴槿恵は退陣せよ」の代わりに、「ろうそくが勝利した」と叫びながら互いを称え合っていました。「退陣行動」のイ・テホ共同状況室長は、「闇は光に勝てない。偽りは真実に勝てない。私たち皆が細々と声に出していたその小さな叫びが、巨大な喚声となり、野火となり、民衆の意志が、主権者の力が山岳のように隆起することを私たちは見た。私たちが成し遂げた。皆さん、私たちが勝った。私たち主権者が新しい歴史を切り開いた」と述べていました（ハンギョレ新聞3月12日7時44分配信）。

また、「退陣行動」の関係者は、朴大統領の罷免が決まったことを受け、ろうそく集会については11日を最後に終了することを明らかにしました。しかし、大統領選の期間は退陣行動の組織を維持し、2～3回の大規模な週末集会を開き、朴前大統領の拘束や共犯者の処罰、不正行為の清算などを求め、また旅客船セウォル号の早期引き揚げや沈没事故の真相究明などを求める集

それは国の不幸であり本人の不幸だ」とし、また中央日報の社説「憲法裁の大統領罷免は国民の命令だ」（日本語版3月11日14時13分配信）は、「我々は憲法裁の判決を国民の命令として受け止め、これを支持する」「生きた権力を握る大統領を国民が権限を付与した憲法裁を通じて民主的に退場させた」「依然として路上で反発する支持勢力に日常に戻るよう訴えなければいけない。それが国民の葛藤を解消し、和合と統合に進むための最後の愛国だ」と主張していました。

会を不定期に開催すると説明していました（聯合ニュース3月10日20時2分配信）。

3月11日に光化門広場で20回目となる最後の大規模ろうそく集會が開かれ、主催者発表で約65万人が集まり、参加者たちは罷免宣告を「ろうそくの勝利」と宣言し、ろうそくの勝利を記念する花火が空を飾り、「弾劾は始まりに過ぎない。朴槿恵を拘束（逮捕）せよ」と氣勢を上げ、黄教安大統領権限代行首相の退陣、国政介入事態の共犯者の処罰などを求めています。集會後には、青瓦台近くまで行進しました（聯合ニュース3月11日18時56分配信、時事通信3月11日20時3分配信）。³⁵⁾

なお、ハンギョレ新聞（3月13日6時48分配信）は、「この日午後から光化門広場はお祭りムードに満ちあふれていた。全国農楽人連席會議などの伝統打楽器隊の演奏が光化門広場に響き渡り、光化門広場のあちこちに弾劾を祝う花輪40本余りも置かれた。温かい春の陽気に友人・家族と連れ立って広場を訪れた市民たちは、明るい表情で『これが国だ、これが正義だ』『朴槿恵弾劾、ろうそくの勝利』などのプラカードを持って記念撮影をした。李貞美憲法裁判所所長権限代行をパロディー化し、カーラーを髪の毛に巻いてきた市民も登場し、笑いを誘った」「『積弊大統領』の罷免を祝うお祭りは、この間ソウルに劣らず週末を熱くした全国主要都市でも、盛り上がる雰囲気の中で行われた。市民たちはお餅と酒を分け合いながら共に祝った」と報じていました。³⁶⁾

35) 共に民主党の大統領候補である李在明城南市長は、ろうそく集會に参加し、朴前大統領が青瓦台を退去せずにいることに対し、「青瓦台は国家財産で、保安上深刻な多くの問題があり得る所なのに大統領でもない民間人が不法占拠しているのは国家安保上も常識的にも深刻な問題だ」「青瓦台は大韓民国で最も重要な情報と国のすべての機密文書があり、大統領でもない人が居座り続けているはならない。朴槿恵は退去しなければならぬ」と話していました（中央日報日本語版3月12日10時43分配信）。

36) 朝鮮日報（日本語版3月13日10時25分配信）は、「ろうそく集會を主催した複数の団体は11日午後、ソウル市中心部の光化門広場で『キャンドル勝利集會』を開くなどまさにお祭り騒ぎだった。これらの団体はこの日をもってキャンドル集會をいったん終わることにしたが、これは言うまでもなく当然のことだ。彼らの願い通り大統領の弾劾が成立したのだから、今後集會を続ける理由はなくなった。しかし大統領の弾劾という国家的な不幸を『勝利』だとか『祝賀』などと口にする彼らの言動は思慮が浅いと言わざるを得ない」としていました。

他方，朝鮮日報の社説「光化門広場の醜悪な違法テント，今こそ撤去の時だ」（日本語版3月13日10時25分配信）は，「ろうそく集会を主催した複数の団体は今なお光化門広場に残留する70張り以上のテントを直ちに撤去しなければならない。光化門広場は今や巨大なテント村へと変貌してしまい，見る者をこれほど不快にするものもない」「難民キャンプでもないソウル都心が何とこのままだろうか。テント周辺には『○○を刑務所にぶち込め』だとか『△△は□□の血を吸い取っている』など見るに耐えない言葉が書き連ねられている。また周辺には荒縄に縛られた朴槿恵前大統領，黄教安大統領権限代行首相，李在鎔サムスン電子副会長，鄭夢九現代自動車グループ会長などの巨大な人形が設置され，その額には『拘束』と書かれた紙が貼られている。またその写真を鉄格子に入れた模型もある」と報じていました。

続けて，同社説は「崔順実事件だけでなく，裁判で解散させられた極左政党・統合進歩党問題，労使紛争，原子力や4大川開発などに抗議する横断幕も掲げられている。これらはキャンドル集会の原因となった大統領の弾劾や崔順実問題などとは何の関係もない。またさまざまな落書きが書き込まれた使用済みの不潔な金属製食器が，芸術作品とも言わんばかりに木に掛けられた不快な光景も目につく。国民の多数は弾劾を望んだが，彼らにこんなことをしてほしいとは考えていない。この光景は数カ月前から市民も観光客も不快に感じており，これ以上放置するわけにはいかない」と，ろうそく集会の主催者を批判していました。

14 朴大統領の不服従宣言

朴前大統領は，3月12日午後7時37分頃にソウル三成洞の自宅前に到着し，終始笑みを浮かべた表情で太極旗を持って待っていた支持者に挨拶し，親朴系議員と一人ひとりと握手をして言葉を交わし，青瓦台報道官を務めた自由韓国党の閔庚旭議員が朴前大統領のメッセージを発表し，それは「私に与えられた大統領としての役割を最後まで全うできず申し訳ない。私を信じて声

援を下さった国民の皆様にご感謝申し上げます。このすべての結果に対しては私が抱いて行く。時間はかかるだろうが、真実は必ず明らかになると信じている」というものでした。

ハンギョレ新聞(3月13日8時40分配信)は、「朴前大統領が憲法裁判所の罷免決定に“不服従”宣言をしたことにより、弾劾に反対してきた支持者の動きにも影響を及ぼすものと見られる。検察の強制捜査に直面した朴前大統領が、自身の潔白を訴えて、支持層の結集を通じた世論戦に出たという解釈も出ている。特に5月に予定された早期大統領選挙を控えて保守勢力が結集できる“口実”を提供したものと見られる」と報じていました。

また、同社の社説「承服と統合」の代わりに、“対立と対決”を選んだ朴前大統領(3月13日8時40分配信)は、「『時間はかかるだろうが、真実は必ず明らかになると信じている』と述べ、憲法裁の決定に承服せず、闘う意向を明らかにした。承服と統合の代わりに対立と分裂の戦いを続けるという不吉なメッセージだ」「支持者たちのデモが暴力化し、負傷者と死亡者まで出たにも関わらず、“不服”のメッセージで反発を“扇動”し、支持者を結集しようとしている。無責任で、危険きわまりない言動だ」「目前に迫った検察の捜査と処罰を免れるために、支持勢力を“防波堤”にしようという思惑だ」と批判していました。³⁷⁾

中央日報の社説「朴槿恵前大統領の不服…国を分裂させるのか」(日本語版3月13日8時45分配信)は、「憲法裁の弾劾決定に露骨に異議を提起して支持層を結集させ、検察に『威力誇示』をすることで、自分に対する捜査の鋭鋒を挫こうという内心が表れている」「韓国党を取り込んで自分を弾劾させ

37) 朝鮮日報の萬物相「勝者の宴のあとに韓国社会が直面する現実」(日本語版3月13日10時26分配信)は、「広場では人々がシャンパンを開ける姿も見られた。翌日には数万人が広場に集まった。祝いの歌が流れ、祝砲も響いた。彼らが歓呼しているその時、ため息をつく人々が韓国社会にはいた。法治主義を拒否するわけでも、民主主義を否定するわけでもない。特定の個人ではなく国を憂う人々、考えが異なるために敗者にされた人々だ。弾劾後の政治変動、安全保障危機、経済危機への不安で落ち着かない人も少なくない。大統領弾劾はないに越したことはない不幸な事件だ。声を上げて笑うようなことではない。勝者の宴はいつまで続くのか。宴が長引くほど、社会の亀裂は深まる」としていました。

た非朴派・野党圏と対決政治をするという意志と読み取られる」「支持層を人質にしてこうした世論に正面から対抗し、国を分裂させるという宣戦布告と変わらない行動だ」と批判していました。

聯合ニュースは、ハンギョレ新聞や中央日報とは異なり、「憲法裁の決定への事実上の『不服宣言』に対し、政界で非難の声が高まっている」が、「朴前大統領はこれまで、『私益追求のためしたことはただの一度もなかった』『私個人や側近のため、大統領の権限を行使したり乱用したりした事実は決してない』として、弾劾訴追の理由や容疑を否認してきた」ため、「当面する検察捜査も自身に不利な方向に進む可能性が高いものの、法廷闘争などを通じ、長期的に一連の疑惑を解明していく意思を示した」「今は負けることも覚悟し、最後まで戦う意思を表明した」(3月13日14時56分配信)と報じていました。

他方、朴前大統領の私邸のある三成洞一帯は、3月12日は一日中慌ただしく、朴前大統領が青瓦台から出るという話が伝わると、太極旗を持った支持者が午前中に集まり、その数は約500人と言われ、「朴槿恵国民大統領を歓迎する」「従北左派を剔抉した我々の国民大統領、朴槿恵」などと書かれたプラカードを掲げていました。集まった支持者の数は午後4時頃には900人に増え、朴前大統領が私邸に入った後も、一部の支持者は1時間近く残って「弾劾無効」を叫んでいました(中央日報日本語版3月13日10時2分配信)。³⁸⁾

また、十数人の支持者が帰宅せず夜を徹し、翌3月13日午前7時頃には約20人の支持者が大小の太極旗を掲げて立ち、「強引な弾劾」「弾劾無効」などと叫び、憲法裁判所の罷免決定を強く批判し、報道陣に強い不満をぶつけていました。(WoWiKorea 3月13日9時53分配信、聯合ニュース3月13日11時25分配信)。³⁹⁾

38) 中央日報(日本語版3月13日10時2分配信)は、集まった支持者の一部が撮影記者用のはしごを蹴って倒し、取材車両に石やペットボトルを投げつけ、警察官に向かって唾を吐き、胸倉をつかんで「検察、警察、メディアはすべて腐っている。我々の大統領は我々が守る」と叫び、愛国歌を歌って涙を浮かべる支持者もいたと報じていました。

39) ハンギョレ新聞(3月16日7時53分配信)は、朴前大統領が自宅に戻ってきた3月12日には900人を超える支持者が押し寄せ、翌日からも毎日約100人が集まり、彼らの中に

15 ろうそく集会の正体

朝鮮日報の社説「大韓民国に憎悪を抱く占領軍気取りの左翼集団」（日本語版3月15日9時27分配信）は、「かつての金大中・盧武鉉政権で外交・安全保障政策を担当してきた複数の元政府高官らによるグループが13日『今回の弾劾は朴槿恵政権が進めてきた全ての政策に対する弾劾だ』とした上で、政府に対し『これ以上は何もするな』と要求した。外交・安全保障政策担当部処（省庁）の関係者に対しては『これ以上の反逆行為はやめよ』と呼び掛けた。まるで戦争後に占領軍が敗戦国に一方的な指示を下すかのようだ」「『何もするな』『反逆するな』という言葉は同じ国の人間同士で言うべき言葉だろうか。世界から『ならず者国家』とされている北朝鮮には非常に寛容で理解を示しながら、同じ大韓民国の国民や政府関係者に対してはなぜこれほどの憎悪を抱くのか、全くもって理解できない」としていました。

続けて、同社説は「憲法裁判所がすでに明らかにしたように、今回の弾劾における最も大きな理由はミル財団とKスポーツ財団だ。ところがここ数カ月にわたり続いたキャンドル集会では、米国の最新鋭地上配備型迎撃システム『高高度防衛ミサイル（THAAD）』の配備反対、李石基元統合進歩党議員やハン・サンギョン元全国民民主労働組合総連盟委員長の釈放、国定教科書反対など、朴槿恵前大統領の弾劾理由とは関係のないことも叫ばれていた。その時点では『キャンドル集会参加者の中には過激派も紛れ込んでいたからこんな主張も出てくる』と誰もが考えていた。ところが今回、金大中・盧武鉉政権で外交・安全保障政策を担当した元政府高官やブレインが政府に対して脅迫めいた主張をするのを見ると、キャンドル集会を背後で操っていたの

は弾劾審判の判決を翌日に控えた9日夜に憲法裁判所の前で野宿した人や、今も毎日朴前大統領の自宅前で夜を明かす人がいて、主に50～70歳代の高齢の支持者たちはなぜ「アスファルト親朴」になったのだろうかとし、その理由として「『アスファルト親朴』らは、国民統合のために憲法裁の8:0満場一致の弾劾決定が出たという評価について、『8:0は人民裁判』だと怒りを露わにした」「朴槿恵-崔順美ゲート」と関連する憲法裁の罷免の判決が公正でない、性急だったと主張する人もいた」「若い世代に対する反感も明らかになった」と報じていました。

がまさに彼らだったことが分かる」と述べていました。⁴⁰⁾

また、中央日報日本語版(3月16日10時49分配信)は、3月15日の国会外交統一委員会で、共に民主党の姜昌一議員が「次官も(長官と)同じ考えなら、新政府に入ったらすぐに辞めてもらわなくてはなりませんね」「検察は新政府になればこれに合わせて改編するつもりですが、外交部も(そのように)しなければならない」と発言するなど、その質疑が「新政府の占領軍のようだ」「民主党はすでに大統領選挙に勝って政権を執ったかのように振る舞っていて不愉快だった」「姜議員のあきれた主張に言葉を失った」とする声が出ていたと報じていました。

同様に、朝鮮日報日本語版(3月17日9時55分配信)は、「朴槿恵政権で大統領秘書室長だった金洪春被告は2014年、文化体育観光部の幹部5人を辞職させようと本部に不当な圧力を加えたとして、職権乱用の容疑で起訴されている。ところが姜昌一議員は今回、自らが所属する政党が政権を握る前から官僚らに対し『辞表を出すつもりか』などと脅迫した。これでは『この政党が政権を握れば何をするか分からない』という懸念は全くの誇張でもないように思われてくる。姜議員は外交部の職員に対し『誰の手下か』と問い詰めたが、彼らが政権を握れば政府の全ての部処(省庁)を『共に民主党の手下』で満たすつもりだろうか。たとえ支持率が圧倒的1位だとしても、国民はこのようなことを求めているわけではないはずだ」と報じていました。⁴¹⁾

40) 北朝鮮の対韓国窓口機関の民族和解協議会は3月11日に、朴前大統領の弾劾は始まりにすぎないとして、韓国国民に対し、「歴史の反動(勢力)を完全に埋葬するために戦わなければならない」と主張する報道官声明を発表し、朝鮮労働党機関紙の労働新聞は「行くべく道を歩んだ世紀的な悪女の悲劇的な終末を告げる」との論評を掲載し、この4年間の低調な韓国の経済成長率や高い若者の失業率、セウォル号沈没事故なども朴前大統領の失政の産物だと主張していました(聯合ニュース3月14日14時28分配信)。

41) 朝鮮日報日本語版(3月17日9時54分配信)は、「大統領選挙が53日後に近づく中、候補者の支持率に関する数々の世論調査で文在寅氏が圧倒的な1位を維持していることから、官僚らが文氏陣営に列を作る動きが目立つようになった」「官僚たちが必死で列を作る中、今政策を推進する力は目に見えて弱まっている。米国の最新鋭地上配備型迎撃システム『高高度防衛ミサイル(THAAD)』配備をめぐる中国との対立、失業者が135万人に達するといわれる深刻な雇用問題など、国内外にはさまざまな課題や問題が山積しているが、これらの危機に対処すべき官僚たちが仕事を放り出している影響で、重要政策の多くは完全に宙に浮いたままだ」と嘆いていました。

他方、ソウル市は3月19日に、朴前大統領の罷免まで134日間、計20回にわたって開かれ、延べ1600万人の市民が参加したろうそく集会を2018年1月にノーベル平和賞に推薦する計画を明らかにしました。それは、AFP通信が「大規模集会の雰囲気は祭りのようで、暗い夜を光の海で埋めた」と報じ、米ニューヨーク・タイムズが「デモは常に平和で祭りの雰囲気」と言及していたことから、ノーベル平和賞の理由になると考えたからで、①民主主義および平和、憲政秩序の維持などの国民的世論を表した点、②平和な集会方法の先例を提示して民主主義の模範事例として機能した点、③世界的に類を見ないほど多くの人々が参加した点、などを重点的に表明する予定としていました。また、ろうそく集会の国連教育科学文化機関（ユネスコ）の「世界の記憶」（世界記憶遺産）への登録申し込みも計画とされ、登録には最低3年以上の資料収集の期間が必要と考え、ソウル市は2020年に申込書を提出するとしていました（中央日報日本語版3月20日9時11分配信）。

16 韓国人の恥さらし

韓国のネットユーザーたちが外国のインターネット・サイトで朴大統領の弾劾をめぐり「書き込み合戦」を繰り広げ、朝鮮日報の記事「弾劾めぐり外信サイトで韓国人が醜い争い、『国の恥』非難も」（日本語版3月19日22時7分配信）と、同社の社説「海外サイトで書き込み合戦、韓国人の恥さらし」（日本語版3月21日11時5分配信）は、「国の恥」「韓国の恥さらし」とネットユーザーを批判していました。

それによると、弾劾宣告日の3月10日に米放送局CNNのフェイスブック公式アカウントでは、「朴大統領罷免」という速報記事に弾劾賛成派が英語で「民主主義の勝利だ」「誇らしい」とコメントを書き込むと、弾劾反対派が韓国語で「誇らしいと言うな。恥ずかしい」と書き込み、それ以降、双方はサイト上で「お前みたいな朴槿恵支持派は良心と体面を捨てたのか」「弾劾は従北（北朝鮮に追従する）左派の陰謀だ」などと英語と韓国語で罵り合い、

誹謗中傷の応酬を続け、この喧嘩は結局、韓国語の「罵り言葉」で終わりました。なお、弾劾賛成派と反対派の集会の状況を生中継していた米ワシントン・ポストの公式サイトでも、コメント欄は見苦しい言い争いで埋め尽くされ、耐えかねた外国のネットユーザーたちが「内輪もめは別の場所でやってくれ」と書き込み、ワシントン・ポストのサイト運営者に「彼らをブロックすることはできないのか」と抗議したとされています。

また、朴大統領の罷免決定後、韓国のニュースを伝える海外メディアのサイトで韓国のネットユーザーたちが泥沼の争いを繰り広げ、3月15日に英放送局BBCが「朴前大統領が、飼っていた珍鳥犬を青瓦台に残して出ていった」と報じると、ある韓国人ネットユーザーが「朴槿恵が犬を置き去りにして出て行ったことは驚くほどのことではない。476人を乗せた(旅客船)セウォル号が海に沈んだとき、(朴前大統領は)何もしなかったから」と英語で書き込み、「セウォル号の事故当時、海域には米国の軍艦もいたが、朴槿恵が救援を断った」と嘘を書き込むネットユーザーもいたと報じられています。朝鮮日報の社説は「一部の韓国人は、韓国の事情をよく知らない外国人ネットユーザーに対し、嘘のニュースを事実であるかのように伝えている」と嘆いていました。⁴²⁾

個人攻撃も相次ぎ、英国の週刊誌エコノミストの弾劾に関する記事に、弾劾賛成派が「朴前大統領がセウォル号の惨事で300人以上の若い命を奪った」と書き込むと、弾劾反対派が「文在寅はアホ」と応戦し、英語で始まった書き込み争いは、最後は韓国語の罵詈雑言になったと言われています。

他方、弾劾賛成派・反対派の言い争いは、米ホワイトハウスのウェブサイト上でも繰り広げられ、ホワイトハウスの市民請願サイトでは「朴槿恵は正当な大統領であり、弾劾されてはならない」と署名運動が行われ、3月19日

42) 嘘を事実だと信じた外国人ネットユーザーは、「大統領が何か一言でも言っていれば全員助かっただろうに」と受け止め、ある外国人ネットユーザーは「英語で事実であるかのように断定的な表現で書き込んでいるので、私も真実だと思ってしまった。韓国のニュースを普段あまり見ない人がこれらを読んだら、朴大統領について誤解する可能性が高い」と指摘していたと報じられていました。

までに9000人以上が署名しました。2016年には、ある在米韓国人が市民請願サイトで「終末高高度防衛ミサイル（THAAD）の韓国配備を撤回せよ」という署名運動を行い、朝鮮日報は「こんなことは世界のどこにも見られない」と嘆いていました。また、3月17日には映画のプロモーションで訪韓したハリウッド女優の記者会見で、「韓国の大統領弾劾を知っているか」という質問が飛び出し、韓国に初めて来たその女優は「私を韓国の政治に巻き込むのですか？」と冗談でかわしましたが、朝鮮日報は「考えただけでも顔から火が出る」と恥をさらす韓国人に呆れ果てていました。⁴³⁾

17 ろうそくに再び灯り

朴前大統領の逮捕や、セウォル号沈没原因の解明などを訴えるろうそく集

43) 産経新聞ソウル駐在客員論説委員の黒田勝弘氏は、「日本では近年、『韓国はおかしい』という声をよく聞く。『もう、付き合いきれない』と国交断絶論など極論を語る向きもある。たしかに日本いやがらせの慰安婦像を内外で建てまくっていることや、泥棒が日本から盗んでいった仏像を日本に返さなくてもいいという判決が出るなど、日本人の目からすると“異様”としかいいようがない。昨秋以来、韓国を揺るがせている朴槿恵大統領弾劾問題も、なぜ法的に肅々とやらず、100万人（公称）もの群衆が街頭に出て騒がなければならないのか、日本人は首を傾げる。日本がらみの反日現象だって、昔より今の方が目立つ」とした上で、「この変化はいつからかという、やはり民主化以降といわざるをえない。時代的には1990年代以降だが、韓国は民主化によって政治も社会も民心もすっかり変わってしまったのだ。あくまで日本人の目から見てだが、それ以来、韓国は『国のかたち』をはじめ、さまざまな面でおかしくなった。韓国の民主化とは日本の戦後に似ている。それまでの過去を悪として否定し、善悪の価値観をひっくり返したのだ。したがってある種の革命である」「今や慰安婦問題は日本非難の愛国テーマである。その結果、元慰安婦の老女たちを“愛国志士”に仕立て上げ、記念像を各地に建てて国家的な“教育遺産”にしてしまった。そうした臆面の無い発想は民主化によってもたらされた」「韓国では民主化とは『法より民意』である。メディアを挙げて『これが本当の民主主義だ』と自画自賛している最近の『100万人ロウソク・デモ』も、代議政治無視の『法より民意』の発想である。法は秩序だが、民主化は民意優先だから秩序も崩れる。その象徴がソウルの中心部にある『光化門広場』を“占拠”している不法テント村。『セウォル号沈没事故』の犠牲者支援と称し、朴槿恵政権非難を続ける反政府派の座り込みテントだ。これも『民意』への配慮から撤去できない。民主化が韓国社会全体に無法現象を生んでいるのだ」「『反日無罪』という韓国社会の日本に対する伝統的(?)な甘えに加え、民主化が政治や外交まで壊してしまった」(NEWS ポストセブン3月24日7時0分配信)と、韓国がおかしくなった理由を説明していました。

会「第21回汎国民行動の日」が、3月25日午後には光化門広場で開かれました。「退陣行動」は、朴大統領の罷免が決定した翌日の3月11日の20回目の集会で勝利宣言し、先週末には集会を開かず、2週間ぶりとなる今回の集会にセウォル号沈没事故の被害者遺族らも参加していました（聯合ニュース3月25日22時36分配信）。⁴⁴⁾

一方、「国民抵抗総決起運動本部」は、同日午後にはソウルの徳寿宮付近で弾劾無効を求める大規模集会「第3回弾劾無効国民抵抗総決起国民大会」を開き、集会に参加するため観光バスなどに乗ってやって来た参加者は身体に太極旗を巻き付けたり星条旗を手にしたしたりして「弾劾無効」「アカ（共産主義者）は死ぬ」などのスローガンを叫んでいました。集会には自由韓国党の金鎮台議員、趙源震議員、弾劾審判で弁護団を務めた徐錫九弁護士らが参加し、趙議員は「大統領が扇動と陰謀で弾劾された。弾劾自体もくやしいが檢察で逮捕する、しないという話が出ているのは話になるだろうか。もし大統領を逮捕するならば右派は全面的な闘争をするほかはない」「偽りが徐々に明らかになっている。偽りは絶対に真実に勝つことはできない。大統領魔女狩りはやめなければならない」と述べていました。参加者の一人は朴前大統領が「逮捕されれば、われわれ右派が全面闘争せざるを得ない。魔女狩りはひどい結果を招く」と話していました（中央日報日本語版3月26日10時40分配信）。

朝鮮日報日本語版（3月25日9時8分配信）は、「キャンドル側は『朴槿恵逮

44) 聯合ニュース（3月23日14時21分配信）は、「退陣行動」が3月23日の記者懇談会で「25日の集会では、黄教安大統領権限代行首相の退陣、米最新鋭地上配備型迎撃システム『終末高高度防衛ミサイル（THAAD）』の在韓米軍配備の撤回なども訴える」と述べたと報じていました。また、「退陣行動」は3月24日午前にはソウル中央地検の前で記者会見を開き、「檢察は朴前大統領を拘束捜査せよ」と要求した後、「被疑者朴槿恵の拘束捜査の必要性に関する意見書」をソウル中央地検に提出しました。「退陣行動」は、「朴前大統領は国民から罷免されて収賄や職権乱用による権利行使の妨害、強要罪など13の重大な犯罪容疑がかけられた被疑者」だとした上で、「大統領府退去を引き延ばしてシュレッダー数十台を導入しただけではなく、大統領記録物を搬出した疑惑が持ち上がるなど、国政壟断、政治工作などと関連した多くの証拠の隠匿疑惑が相次いでいる」と、拘束捜査の必要性を強調していました（ハンギョレ新聞3月25日17時57分配信）。

捕とセウォル号沈没事故の真相究明』を、太極旗側は『憲法裁判所の解散と特別検事に対する捜査』を主張している。双方とも自分たちの要求が受け入れられるまで集会を続ける意向のようだ。弾劾をめぐって激しく対立してきた双方が、今度は朴前大統領の逮捕をめぐって再び対立を始めている」と懸念を示していました。⁴⁵⁾

ハンギョレ新聞の社説「『朴槿恵の拘束』、迷う必要ない」(3月23日15時9分配信)は、「朴前大統領が検察の事情聴取で容疑を全面否定したのも、拘束の必要性を高めている。確実な物証と関連者らによる揺るぎない供述が揃っているにもかかわらず、犯罪の故意性を繰り返して否定すること自体が、証拠隠滅の懸念を一層明確に示している」「証拠が明らかなのに、頑なに容疑を否定するのはいつでも捜査を妨害するであろうと見るしかない」「関係者の大半が拘束されている時に、すべての容疑の中心人物である朴前大統領を拘束しないのは、公平性にも反する」と、朴前大統領の拘束を主張していました。

また、検察が3月27日に朴前大統領の逮捕状を請求したことを受け、ハンギョレ新聞の社説「韓国検察、今こそ決断の時だ」(3月27日11時46分配信)は、「前大統領を召喚調査しておきながら、1週間も身柄処理の決定を先送りするのは望ましくない。ややもすれば問題を呼び起こしたり、検察が右往左往しているという印象を与えかねない」「証拠が確実で、関連者の陳述まで終えたとすれば、これ以上ためらうことなく決断を下すのが正しい」「朴氏

45) 聯合ニュースの時論「セウォル号めぐる憶測自制を 調査委の活動を見守ろう」(3月27日12時31分配信)は、「韓国政府は、少なくない反対を押し切ってセウォル号の引き揚げを決めた。船体を海中に残したままでは、この事故にけりをつけられないと判断したのだろう。事故をめぐる検察の捜査結果の発表後に浮上した非常識な憶測や推論を払拭するためにも、必要なことだった。だが、引き揚げられた船体が事故現場から90キロほど離れた木浦の港に到着してもいないうちから、新たな批判や疑惑が頭をもたげている。実にやるせない」とした上で、特別法により設置される船体調査委員会は資料や物品の提出命令、同行命令、参考人などの調査、告発・捜査要請、監査要求など絶大な権限を持ち、「これほど力の強い組織が近く活動を始めるのだから、特に根拠もなく疑惑を提起するという無駄なことはやめ、落ち着いて調査の結果を見守るべきだ」としていました。

が弾劾以後にも謝罪どころか憲法裁判所の決定に従わないような態度を見せ、国民世論も拘束すべきという意見が70%以上で圧倒的だ。青瓦台にしても怪しいシュレッダー導入に、家宅搜索令状の拒否など証拠隠滅の兆候も明確だ」と主張した上で、「最近では組織的な抵抗の動きまで感知される。ソウル江南区のシン・ヨンヒ区長らが加入した（SNSの）団体カカオトークルームでは『戒厳令宣言の名分を作るために警察を火炎瓶で攻撃』しなければならないなどの対話までが交わされたという」と報じていました。

なお、ソウル中央地裁は3月31日未明に検察が請求していた朴前大統領の逮捕状を発付し、朴前大統領は直ちに拘束されました。収賄などの容疑を否認していた朴前大統領の逮捕状を発付したのは、証拠隠滅などの恐れがあるとする検察側の主張を受け入れ、国政介入事件で起訴された崔順実被告との共犯関係が成立すると判断したためとみられると報じられていました（聯合ニュース3月31日3時18分配信）。

おわりに

弾劾訴追案が可決された直後の2016年12月9日午後4時に「退陣行動」が出した声明は、「今日の弾劾訴追案の可決は国会ではなく、主権者である国民の力で成し遂げられた」とし、ハンギョレ新聞（12月9日18時21分配信）は「国民が勝った」「国会は憲法によって反憲法勢力を断罪するという主権者の峻厳な命令に逆らえなかった」と報じるとともに、同紙は「憲法と法律を破った大統領を弾劾審判の場に立てたのは主権者である国民だ」と主張し、共に民主党の文在寅前代表（現大統領）は「主権者の心が憲法であり、憲法裁判所はこの民心をしっかりと支持して下さるものと考えている」と述べていました。

国民が主権者であるという国民主権について、大韓民国憲法（第六共和国憲法）第1条第2項は「大韓民国の主権は国民にあり、全ての権力は国民から由来する」と謳い、野党3党が作成した弾劾訴追案は国政介入事件を「国民

主権および代議制民主主義の本質を損傷した憲法違反」と位置づけ、憲法裁判所は朴大統領が国民民主主義と法治主義、刑事法に違反したと判断し、李貞美憲法裁判所所長代行は「朴大統領のこのような違憲、違法行為は、代議民主制の原理と法治主義の精神を毀損した」と述べていました。

国民主権とは具体的に何を言うのか、についてはさまざまな議論がありますが、国民主権という考え方は一般にフランス革命時の「国民はすべてに優先して存在し、あらゆるものの源泉である。その意志は常に合法であり、その意志こそ法そのものである」とされています。つまり、文在寅前代表が「主権者の心が憲法である」と述べていたように、国民の意志自体が法であり、愚かな民心によって既存の法をいかようにも変えることができるという考え方は、暴動や政権転覆などを引き起こす可能性があり、危険な思想とされていました。そのため、現代では国民主権を主張するために法治主義など暴動などに歯止めをかける仕組みが作られていますが、その歯止めが利かないのが今の韓国です。

それは、韓国人は主権者意識が強く、街頭や広場で声をあげることこそが民主主義だと考えているからですが、民主主義論の世界的な権威とされるスタンフォード大学のラリー・ダイヤモンド教授は、「街頭政治は最後の手段だ。問題が起こるたび利害団体が街角に飛び出すのは、民主主義のためにならない」「デモと街頭政治が習慣になったら、韓国の民主主義にとっては毒だろう」と警告しています（朝鮮日報日本語版8月20日6時9分配信）。ダイヤモンド教授が指摘するように、人々がデモと街頭政治（かつては鉄パイプと火炎瓶）で民主化を達成したと自負し、民主化の実体を「法より民意・民心」として捉え、デモと街頭政治を繰り返している韓国の民主主義には他の国々とは異なる異質性がみられます。

そして、「街頭や広場で声をあげることこそが民主主義だ」「主権者の心が憲法である」とされる韓国では、大衆迎合政治に陥り、それも韓国民主主義の異質性を示しています。（了）